

研究所情報

夏季 通巻50号

編集・発行 特定非営利活動法人 長崎人権研究所

2009年8月31日

第15回全国部落史研究大会 自由民権の地－高知で開催

8月1日・2日、高知市にある自由民権記念館において第15回全国部落史研究大会が開催された。初日は前近代・近現代の分科会がそれぞれ行われ、前近代分科会では、中尾健次氏が『『非人』研究の現状と課題』を「非人＝貧人」論は正当化？等の問題提起を行い、「紀州非人身分の諸相」（藤井寿一）・「近世大坂市中における垣外番について」（小野田一幸）・「『長吏の組織』の探索活動」、近現代分科会では、渡辺俊雄氏が「近現代分科会の趣旨説明」を行い、「戦後初期高知県の部落解放運動」（吉田文茂）・「戦後初期広島県の部落解放運動」（割石忠典）の報告があった。

二日目は、当記念館の筒井秀一氏の「土佐の自由民権と部落問題」をテーマに講演があった。「1881年以降、県下各地に演説会・懇親会・夜学校が広がり、土佐の自由民権運動

は全盛期を迎え」被差別部落の一部にも運動が届いたとして、西谷平等会の設立を報じる『土陽新聞』の記事も紹介された。

大会終了後、特別企画として「自由民権と高知県水平社発祥の地を訪ねて」をテーマに記念館の見学と午後からは市内の被差別部落のフィールドワークが行われた。

また、研究大会に先立ち全国部落史研究会第二回総会が行われ、来年度の大会を8月7日・8日に奈良市で行うこと等が決定された。

（写真・コラム欄）



鶏知中学校前の門柱

●コラム

▼お盆過ぎ、対馬に渡った。研究所で手掛けている対馬藩の朝鮮貿易関係史料を翻刻したものと付き合わせるためである。写真撮影をしているが、やはり読めない（疑わしい）字があるとのことで、Nさんは、三日間資料館にこもりっぱなしだった。九月には、再度訪れることになっている。

▼ずっとお天気が悪かったのに、と幾度も言われた。幸い当日は晴れ上がり、私には、もう一つの目的があった。『神聖喜劇』という大西巨人の小説がある。戦前対馬にあった陸軍の聯隊を舞台にしたもので、部落出身の兵士が登場する。兵舎は、現在美津島町にある鶏知中学校である（上記写真参照）。

▼たまたま学校の先生が居られたので、この話をしてみると、校門のそばに門柱が立っていることを教えていただいた。ただし、他に当時を偲ばせるものはないという。『神聖喜劇』（漫画版）も手に入れたが、これも、なかなか読み進めないでいる。

◆第28回九州地区部落解放史研究集会に参加して！

7月28日～29日、鹿児島市（教職員互助組合会館）

記録的な豪雨は各地に甚大な被害をもたらし、九州自動車道では26日に土砂崩れが発生し、福岡 IC 太宰府 IC 間が不通になりました。その翌日、長崎から九州地区部落解放史研究集会に参加するために自家用車に乗り合わせて移動しましたが、災害現場とは逆方向の鹿児島行きであったのにもかかわらず、鳥栖 JCT 手前で渋滞し、全ての車両が JCT で一度出口から降ろされてしまいました。昨今、夏になると異常気象が話題に上りますが、今年は豪雨と日照不足の夏となってしまいました。



開催地である鹿児島は、九州北部とは異なり、梅雨の期間の降水量は平年の半分程度で、すでに2週間前に梅雨は明けていました。しかし、当日は曇りがちで南国にしては気温はさほど高くはありませんでした。

さて、2日間にわたる研究集会の会場は、ほとんど席が埋まり、参加者は報告者の発表に熱心に耳を傾けていました。

報告は、阿南重幸さん（長崎）の総論「部落史の再考～貧困史観の克服～」から始まりました。総論において江戸時代に関する部落史学習の指導の際のポイントとして、身分呼称、「役」と生業、身分と階層の3点が示されました。その中で、高校の日本史の教科書（山川出版『詳説日本史』）では、「えた」という呼称が「蔑称」と明記されていると指摘がありました。

次に、研究者の立場から、中村久子さん（佐賀）が「近世の食について～肉食の普及～」、竹森健二郎さん（福岡）が「被差別部落民衆のくらし～江戸時代後期の古文書より」と題して、肉食にいそしむ民衆の姿や身分を越えた人びとの交際・交流の様子を報告されました。また、教育者の立場から松本英将さん（佐賀）が「部落史を学ぶと差別が見えてくる」の題で部落問題学習と仲間作りをつなげた教育実践を報告されました。

以上、4本の報告と報告に対する質疑や意見で1日目終了しましたが、小学校教師の松本さんが使用した教材のうち「佐賀県水平社創立新聞記事」の取り扱いに関して疑問が呈されました。松本さんは、地元・佐賀にも水平社が創立されたことを子どもたちに知らせたいという思いで当時の記事を使用しているのですが、「特殊部落民」や「エタ」の箇所を塗りつぶしています。「蔑称」の取り扱いについて、1日目終了後も報告者に多数意見が寄せられていたようです。私も、旧字旧かなの史料を子どもたちに読み込ませる時間が確保できない状態で教材として利用するには無理があるのではないかと意見を申し上げておきました。

2日目は、ミュージアム知覧学芸員の坂元恒太さんが「仲覚兵衛と鹿児島の牛馬骨粉業」の題で興味深い報告をされました。仲覚兵衛は、肥料としての牛馬骨に注目し、薩摩藩の農業革命を主導した知覧の海運商人です。この牛馬骨を入手したのが、全国最大の皮革の集散地だった摂津国渡辺村からでした。「皮は渡辺村、骨は薩摩へ」という皮革・牛馬骨の流通を読み解くことは、部落史（日本史）の理解に寄与すると思われしますので、今回配布された資料を丁寧に読み込んでみたいと考えています。

なお、牛馬骨の流通に関して、対馬からの「浜出し」の事例があります。5年前、熊本で開催された同研究集会で紹介した史料ですが、その記事を紹介して、課せられた任務を終わります。

対馬の村むらには死牛馬の骨を（粉にして）田畠の肥料にする習慣はないが、九州本土の方ではそれを収集して肥料製造の原料にする所がある。そういうことで、1814（文化11）年には、町人の植松屋善次郎なる者が、対馬島内にある死牛馬の骨を集荷して、百石積みの船壱船につき銀三百匁の運上銀を上納するという条件で浜出しの許可願いを提出している。これに付けられた担当の役所からの添え書も一緒に受理した。別に支障になることはないようなので、願の通り許可することにした。翌1815年（文化12）には2回にわたって願書が提出され、いずれも許可されている。

（山下信哉）

浦上四番崩れの跡を訪ねて

7月9日・10日両日、山口県で第34回部落解放・人権西日本夏期講座が開催された。

1日目の全体講演は、ジャーナリストの斎藤貴男氏が「格差拡大社会がもたらしたものー人権の視点から考えるー」の講演、また「猿まわし復活にかけた思い」と題して、村崎太郎氏が『太郎が恋をする頃までには・・・』（栗原美和子著）、そして自ら執筆した『ボロを着た王子様』（2009年、ポプラ社）刊行を通して出会った部落問題の理不尽さを語った。また猿まわしの実演を披露、会場から大きな拍手が送られた。2日目は、パネルディスカッション「部落問題は今～若者からのメッセージ」で解放同盟長崎県連の宮崎懐良氏がパネラーとして発言した。同日、萩市のフィールドワークも行われバスで、腑分けが行われた刑場跡（大谷刑場跡）、吉田松陰ゆかりの地、浦上四番崩れで配流されたキリシタン殉教公園（旧岩国屋敷跡）等を廻った。大谷刑場跡では、女性屍体観臓報告書にある「穢子をして徐々に刀を奏（すす）ましむ」との記載が紹介された。



萩・岩国屋敷跡

フィールドワーク終了後、筆者は、萩の殉教公園を再び訪れ、翌日は島根県の津和野に向かった。萩には、約300人の浦上信徒が流され、40数名が亡くなっている。この公園には、「奉教致死之信士於天主之尊前」と碑文が刻まれた記念碑が建てられ（1891年）、脇には、「肥前国彼杵郡浦上村百姓」と刻まれた墓石が配されている。また、江戸時代初頭棄教を拒んで、殉教した毛利藩家臣等の碑もある。



津和野・乙女峠

萩から、バスで1時間半揺られ津和野は観光客で賑わっていた。JR津和野駅の背面が「乙女峠」で、ここにはマリア聖堂がある。駅から徒歩で15分程行くと谷あいを通り険しい坂道が続く。津和野には、150数名の信徒が流され、30数名が過酷な弾圧で死亡、この地に6年間収容された高木仙右衛門は当時の様子を記録した「覚書」を残している。また、当地の教会には、四番崩れ関係の資料が展示されている。

（あ）

人権関係新聞記事 ひろい読み

2009年6月～8月（この欄は、日刊紙の記事をもとに作成しました）

09/06/02 被害給付金を適用 九州初、佐世保ヤミ金事件で（長崎）

長崎地検佐世保支部は1日、2006～08年にかけて、佐世保市で起きたヤミ金事件について、06年12月施行の被害回復給付金支給法を適用し、被害者に被害額を「給付金」として分配する手続きを開始した。同法が適用されたのは九州では初めて。

同法により、詐欺罪などの犯罪行為によって得た財産を、犯罪者から没収・追徴し、被害額に応じて給付金を配分できる。

09/06/12 県内の虐待相談、45%増の285件 2008年度、減少から5年ぶり増加（長崎）

長崎と佐世保の県内2カ所の「こども・女性・障害者支援センター」が2008年度に受けた虐待に関する相談件数を県がまとめた。件数の合計は前年度比45%増の285件にのぼり、03年度以降、減少傾向にあった相談件数は5年ぶりに増加した。

09/06/14 カネミ油症患者が苦悩の半生語る 五島でワークショップ（長崎）

カネミ油症患者の実話に基づく劇の制作に取り組む「カネミ油症事件を考えるワークショップ」（主宰・宿輪敏子さん）の会合が13日、五島市内であり、劇の対象となった諫早市の40代の女性が、汚染油を食べて病氣やいじめなどに苦しんだ半生を伝えた。

09/06/17 公立小中校 県内耐震化46.6% 3年連続、全国で最低（西日本）

県内の公立小中学校舎などの耐震化率（4月1日現在）は46.6%で、全国47都道府県中、3年連続で最低だったことが16日、文部科学省が発表した全国調査で分かった。ただ、耐震化率は7.6ポイント上昇し、伸び率は全国第3位となった。

09/06/22 原爆症基準を改定 放射線起因の慢性肝炎など追加（西日本）

原爆症認定基準をめぐる、厚生労働省の被爆者医療分科会は22日、放射線が原因と認められることを条件に、甲状腺機能低下症と慢性肝炎・肝硬変を積極的に認定する対象に加えるよう基準を改めた。

09/06/23 DV被害母親の子支援の体育施設整備へ 県が対策強化、2010年3月までに建設計画（長崎）

県は、配偶者の暴力（ドメスティック・バイオレンス＝DV）で保護する女性に同伴する児童が増えていることから、本年度、児童への支援策の一環として、県の婦人保護施設の敷地内に新たに体育施設を整備する。児童は隔離された保護施設内で自由な行動ができず、情緒面や健康面で不安定になりがちなことから、総合的なDV被害者対策として対応が

急務と判断した。全国でも珍しい取り組みという。

09/06/29 長崎県が控訴取り下げへ 在外被爆者訴訟（西日本）

来日できないことを理由に、韓国女性鄭南寿さん＝5月に89歳で死去＝の被爆者健康手帳申請を却下したのは違法とした昨年11月の長崎地裁判決について、金子原二郎長崎県知事は29日記者会見し、控訴取り下げを決めたと発表した。県の敗訴が確定する。

09/07/11 「原爆の日」公立小中の9割が登校日 昨年の5割から急増（長崎）

今年は日曜日になっている「長崎原爆の日」の8月9日を登校日にした県内の公立小中学校（県立中学除く）は、全体の90.7%に当たる524校に上ることが県教委への取材で分かった。土曜日だった昨年の50.4%、2003年の45.8%を大きく超えている。

09/07/17 母子自立支援、利用者2年で2倍 雇用悪化受け制度拡充（長崎）

母子家庭の母親のニーズに応じた就労支援策を組み立てる母子自立支援プログラムの昨年度の県内策定件数が238件に上り、制度が始まった2006年度に比べ約2倍に増えたことが16日、県のまとめで分かった。母親が子育てと生計の維持という二重の負担を抱える中に、経済不況による雇用悪化が直撃しており、安定した職業に就きたいとの希望が増えているのが理由。県は就労支援でさらなる対策にも乗り出した。

09/08/07 原爆症認定訴訟：「認定基準の過ち、なぜ謝罪せぬ」 原告ら、国姿勢に不信感（毎日）

◇原爆症訴訟終結へ 「なぜ謝罪してくれないのか」
ー。麻生太郎首相と日本被団協が原爆症認定訴訟原告の救済策で合意した6日、長崎訴訟の原告団、弁護団も長崎市内で会見した。合意には一定の評価をしながらも「認定行政の過ちを認めないのはおかしい」と、国の姿勢に不信感をあらわにした。

09/08/07 県内中学生の不登校1300人 過去最多、歯止めがかからず（長崎）

県内の公私立すべての中学生で、昨年度中に30日以上欠席した長期欠席者のうち、病気や経済的な理由を除く「不登校」になった生徒は前年度より138人多い1300人で、1997年の調査開始以降、過去最多となったことが、県がまとめた学校基本調査で分かった。中学生の不登校者数は5年連続で増加し、歯止めがかからない現状が浮き彫りとなった。

09/08/09 「世界を正気に戻す役割ある」 デスコト国連総会議長 被爆地の動きに期待（西日本）

9日の長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典に出席するミゲル・デスコト・ブロックマン国連総会議長は8日、長崎市内で開かれた平和市長会議総会や爆心地などを訪問。「被爆地長崎は核兵器廃絶を訴える権威を持っており、世界を正気に戻す役割がある」などと述べた。

09/08/09 きょう64年目「長崎原爆の日」祈念式典、核廃絶へ連携訴え（長崎）

オバマ米大統領のブラハ演説を受け、世界的に核兵器廃絶の機運が高まる中、被爆地長崎は9日、被爆から64年目の「原爆の日」を迎えた。長崎市主催の「長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」は、午前10時40分から同市の平和公園で営まれ、原爆投下時刻の午前11時2分の黙とうで犠牲者を追悼。田上市長は長崎平和宣言で、核兵器廃絶への流れを揺るぎないものとするため、核兵器保有国の指導者らの長崎訪問や、世界中の市民の連帯を訴える。

09/08/10 平和市長会議閉幕 「ナガサキアピール」を採択（長崎）

長崎市で開かれていた平和市長会議（会長・秋葉忠利広島市長）の第7回総会は10日、来年の核拡散防止条約（NPT）再検討会議での「ヒロシマ・ナガサキ議定書」採択や2020年までの核廃絶に関する多国間協議を国際社会に求めるなどした「ナガサキアピール」を採択し、閉幕した。

09/08/19 カネミ油症検診始まる 五島・玉之浦 患者93人が受診（西日本）

カネミ油症患者の健康状態やダイオキシン類の血中濃度などを調べる本年度の県の検診が18日、五島市玉之浦町の玉之浦診療所であり、認定・未認定合わせて、前年より15人少ない93人の患者が受診した。19日には奈留町の奈留保健センターで、27日には長崎市の西彼保健所でも行われる。

09/08/20 長崎市「子育てしやすい都市」全国6位 乳幼児保育など高評価（長崎）

男女共同参画社会の形成のために活動している特定非営利活動法人（NPO法人）「エガリテ大手前」（東京）が、全国51の主要都市を対象に子育てしやすい都市を独自の視点で調べたところ、長崎市は6位という結果が出た。

09/08/20 来年の県内裁判員候補3300人 1300人増、有権者359人に1人（長崎）

市民が刑事裁判に参加する裁判員制度で、長崎地裁は19日までに、県内の来年の裁判員候補者を3300人にするのを決めた。5月に制度が始まった今年の候補者数（2000人）より1300人多く、県内の有権者359人に1人が裁判員候補者になる。

09/08/21 未成年者被害の性犯罪 「出会い系」摘発3倍に 県警少年課調べ 今年上半期で21人（西日本）

出会い系サイトの利用が発端となって未成年者が被害に遭った性犯罪の摘発者が、県内は今年上半期で21人に達し、前年同期の3倍に急増していることが、県警少年課のまとめで分かった。同課は「事件化しているのは氷山の一角」とみており、警戒を強めている。

09/08/21 定額給付金など相当額をDV被害者に 佐世保市が支給申請受け付け（長崎）

佐世保市は、居住地に住民登録ができず定額給付金や子育て応援特別手当を受け取れないドメスティックバイオレンス（DV）被害者に相当額を支給する。基準日の2月1日以前から市内に居住している対象者の申請の受け付けを20日から始めた。来年2月19日まで。

09/08/22 長崎市教委、学校選択制廃止を承認 2012年度から指定校入学（長崎）

長崎市教委は21日、8月定例会を開き、市立小、中学校の学校選択制について、2012年度の新入生からは、地域ごとに決められた従来の指定校への入学を原則とすることを承認した。必要に応じて隣接校に通学できるよう弾力的な運用を続けるが、05年度に導入した学校選択制は原則、廃止されることになる。

09/08/28 長崎市内中学生、16%に心の病リスク 長崎大調査、「早期ケアの必要性」（長崎）

長崎大医学部精神神経科学教室（小澤寛樹教授）が長崎市内の中学校9校、生徒約5000人を対象に行った調査で、将来的に「心の病」を発症する恐れがある子どもたちが16.4%に上ったことが明らかになった。子どもの心の問題についての大規模調査は国内外であまり例がない。

09/08/29 有効求人倍率：7月の県内、前月より悪化0.39倍 「今後さらに厳しく」（毎日）

長崎労働局は28日、7月の県内の有効求人倍率（季節調整値）を、前月より0.02ポイント悪化して0.39倍（全国0.42倍）と発表した。0.3倍台となるのは、池島炭鉱（長崎市）閉山で求職者が急増した01年11月以来7年8カ月ぶりで、世界同時不況の影響を受けた県内雇用情勢の悪化を裏付けた。

09/08/30 佐世保で自殺対策シンポ 県主催、予防策に知識深める（長崎）

県主催の「自殺対策シンポジウム in 佐世保」が29日、佐世保市光月町の市コミュニティセンターであり、市民らが学識者による講演などを通し、自殺予防策について知識を深めた。

最近の受入図書 (●は寄贈)

- 『ナガサキ 消えたもう一つの「原爆ドーム」』(高瀬毅, 平凡社, 09.7)
- 『部落史研究からの発信 第1巻～3巻』(解放出版社, 09.4)
- 『対馬国志』(永留久恵, 同刊行委員会, 09.7)
- 『悲田院長吏文書』(同研究会編, 解放出版社, 08.5)
- 『近現代部落史』(黒川みどり・藤野豊編, 有志社, 09.5)

定期刊行物 (一部)

- 『部落解放研究』第186号 (社 部落解放・人権研究所)
- 『部落解放』第615号～619号 (解放出版社)
- 『ヒューマンライツ』第255～257号 (社 部落解放・人権研究所)
- 『リベラシオン』第134号 (社 福岡県人権研究所)
- 『研究紀要』第15号 (社 ひょうご部落解放・人権研究所)
- 『ひょうご部落解放』第133号 (社 ひょうご部落解放・人権研究所)
- 『GLOBE』第58号 (財 世界人権問題研究センター)
- 『解放研究』第22号 (東日本部落解放研究所)
- 『佐賀部落解放研究所紀要』第26号 (同 研究所)
- 『鳥取県部落史研究会のあゆみ Ⅷ』(鳥取県部落史研究会)
- 『関西大学人権問題研究室紀要』第57号 (関西大学人権問題研究室)
- 『紀要』第3号 (社 和歌山県人権研究所)
- 『RILIANNIS』第19号 (社 反差別国際連帯解放研究所しが)
- 『どろお』第14号 (社 反差別国際連帯解放研究所しが)
- 『研究紀要』第15号 (奈良県立同和問題関係資料センター)
- 『研究紀要』第14号 (財 世界人権問題研究センター)
- 『語り伝える地区の生活』(さいたま市教育委員会他)

活動の記録

09/6～09/8

6月

- 1 フィールドワークA(田隈校区人権尊重推進協議会)
- 6 第2回拡大運営委員会(啓発センター)
- 8 人権フェスティバル第1回連絡会(啓発センター)
- 13 部落解放同盟長崎県連定期大会(銭座第2集会室)
- 15 フィールドワークA
- 16 フィールドワークB
- 20 フィールドワークA(嘉麻市同和教育研究会)
- 25 第3回運営委員会(銭座集会所)
- 26 横浜市職員人権啓発県外研修
- 31 県北部落史第79回定例研究会(中津下毛教育会館)

7月

- 4 フィールドワーク「西海路」(部落解放共闘長崎県民会議)
- 9～10 部落解放・人権西日本夏期講座(山口市)
- 14 第4回運営委員会(銭座集会所)
- 15 人権に関わる各種機関相談員研修会(啓発センター)
- 22 第2回部落解放学習会(長崎県教育文化会館)
- 24 島原市フィールドワーク調査
- 27～29 第28回九州地区部落解放史研究集会(鹿児島市)
- 31～1 第15回全国部落史研究大会(高知市)

8月

- 5～6 第34回長崎県人権教育研究大会(大村市)
- 9 被爆64周年原爆犠牲者追悼法要
- 10 フィールドワークB(福知山市)
- 11 第5回運営委員会(銭座集会所)
- 18～19 対馬史料調査(対馬歴史民俗資料館)
- 24 長崎市教育委員会初任者研修(長崎市民会館)
- 25 フィールドワークA(長崎市教育委員会新任研修)
- 26 壱岐市人権教育研究会研修会(石田町農業改善センター)
- 27 人権・同和教育指導者養成セミナー(啓発センター)
- 29 フィールドワークB(大阪市立大学部落問題研究会)

特定非営利活動法人 長崎人権研究所

〒850-0048 長崎市上銭座町2番7号 Tel: 095(847)8690 Fax: 095(847)8696

E-mail anan@sings.jp

URL <http://homepage3.nifty.com/naga-humanrights/>